

認知症の方との接し方

記憶が保てなくなっても感情は残る

失敗した具体的な内容の記憶は保てない。
しかし、失敗した時に感じた感情は残る。



「傾聴」することが大切です



認知症になって生じる様々な出来事。その出来事から感じた「不安」や「怒り」、「悲しみ」といった負の感情。これらの負の感情を上手に解消できないと「妄想」や「不眠」といった症状に発展することがあります。負の感情の解消には、認知症の方々の話を聞くことが有効な手段です。ただし、ただ聞くだけでは負の感情の解消までには至りません。「相手をよく理解しよう」という姿勢が必要です。これらの姿勢を伴った聞き方を「傾聴」と言います。認知症の方に接する際、「傾聴」を試されてはいかがでしょうか。

高齢者ご本人・ご家族が安心した在宅生活を続けられるようにお役に立てる情報の発信に努めます



介護老人保健施設 草津ケアセンター
介護課 介護福祉士
認知症ケア専門士
(株)日本認知症ケア学会
西島 耕司

私は、認知症の方への日々のケアでは過去の悪い思い出よりも良い思い出を話題にして記憶を強化し、常に楽しい経験を提供して新たに良い思い出を作ってもらえるように努めています。

年を重ねると、記憶に自信がなくなる、新しい物事を覚えるのが億劫になったりはしませんか？これらは誰もがかなり小なり経験することです。
しかし、認知症では初期から今日の日付が分からない、どこに物を置いたか忘れるなどの短期記憶障害を生じます。短期記憶に比べ、過去に経験した長期記憶は症状が進行しても最後まで保たれる傾向があります。「家族や友人等の身近な人の死」といった悪い思い出で大きな精神的ダメージを負い、なかにはそれがきっかけで認知症を発症される方もいらっしゃいます。

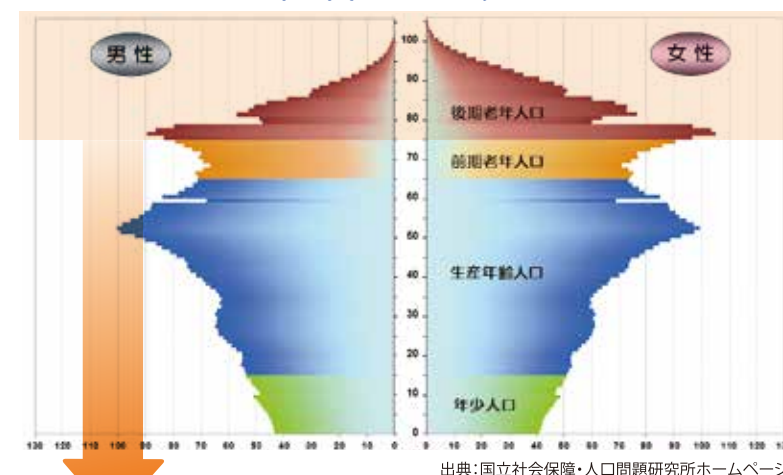
認知症の方との関わりの中で「良い記憶の強化」を心掛けています



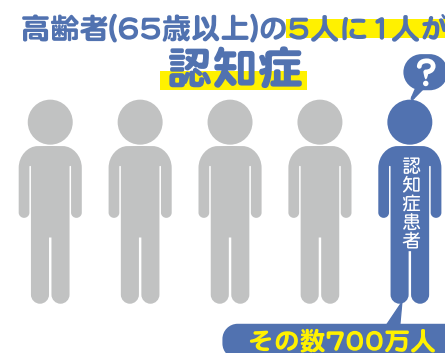
一人で悩まず
相談しましょう
介護コラム

2025年問題をご存知ですか？

2025年の人口ピラミッドのデータ

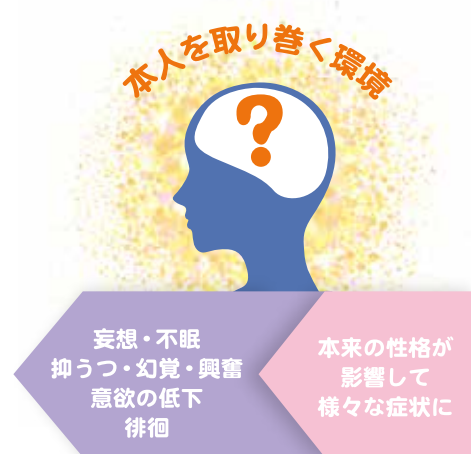


2025年には国民の5人に1人が「後期高齢者」といわれています



2025年は「団塊の世代」が75歳以上の「後期高齢者」になる年です。認知症の高齢者の方は2025年には700万人、高齢者の約5人に1人が認知症になると予測されています。今以上に認知症への対応が社会問題化するでしょう。

「認知症」って何？



認知症は、脳の障害で起こります。脳の細胞が死んだり脳の働きが低下することで直接的に5つの認知機能に障害が生じます。これらの障害に、環境や性格が影響して妄想や幻覚など様々な症状が生じることもあります。

- | | | |
|------------|---------------------|---------------------------------------|
| 認知症の症状 | 時間、場所
人が
判らない | 物事を行う時に計画を立て
順序立てて効率良く
行うことが難しい |
| ①記憶障害 | | |
| ②見当識障害 | | |
| ③理解・判断力の低下 | | |
| ④実行機能障害 | | |
| ⑤失語、失行・失認 | | |

介護の専門家による
お役立ち情報

いきいき介護

vol
3

今回のテーマ

今さら聞けない「認知症」

長い間、認知症は予防も治療もできないと考えられてきました。しかし、近年認知症に関する予防、治療、そしてケアに関する研究は目覚ましい進歩を遂げています。人生100年時代。今や身近な「認知症」。今回は「認知症」についてお話しします。

